

2012 秋のテーマガイダンス ● 図書館展示 10月



映画音楽

～映画の“はじめて”と日本映画史概観～



企画・構成●宮部真砂子・森岡倫子

(国立音楽大学附属図書館

閲覧参考部ガイダンス担当)

展示期間●2012年10月2日～11月8日

映画音楽

～映画の“はじめて”と日本映画史概観～

1895（明治 28）年、パリでリュミエール兄弟が史上初の映画上映会を開いてから、すでに一世紀を越えました。この間に映画は、急速な発展をとげました。映画と音楽は、映画誕生期のサイレント時代から密接な関係を築いてきましたが、今後はどのような変遷を迎えるのでしょうか。今回の展示では、映画史の“はじめて”と日本映画音楽史概観を中心にをご紹介します。



Index

所蔵資料の探し方	2
サイレント時代の映画音楽作曲家	4
映画史年表～日本を中心に～	5
日本アカデミー賞、毎日映画コンクール	8
展示資料紹介	9
パネル／図書／楽譜／映像資料／録音資料	
AV 資料室揭示	

企画・構成●国立音楽大学附属図書館閲覧参考部ガイダンス担当

映画音楽に関する資料の探し方

●楽譜や AV 資料を探すとき

映画音楽も、ほかの音楽作品と同じように、曲のタイトル、楽器編成などで探します。また、「映画音楽」であることを示す件名からも探せます。

<特定の作品を探す>

映画音楽の曲名や映画の作品名がわかっているときは、まずはそれで探しましょう。

ほか、作曲者名などでも探せます。

◇映画の作品名で探す

タイトル	どなりのトロ	前方一致
------	--------	------

◇曲名で探す

タイトル	ねこバス	フレーズ
------	------	------

※フレーズ検索にすると、途中の言葉も探すので、曲集に含まれるような小さい曲も幅広く探せます。
※曲集に含まれるような曲は、作曲者名を掛け合わせると探せない場合もあります。
まずタイトルだけで探してみましょう。

◇作曲者名で探す

人名・団体名	久石譲	前方一致
--------	-----	------

演奏手段を掛け合わせることもできます。ピアノ連弾の楽譜を探す例です。

English

検索画面を非表示

簡易検索
詳細検索
典拠検索

和書 洋書 楽譜 録音資料 映像資料 和雑誌 洋雑誌

人名・団体名		前方一致
タイトル	ねこバス	前方一致
件名	4 hands	フレーズ
出版・発行者名		フレーズ

<映画音楽全般について探す>

ジャンルから探す検索項目「件名」を使います。

◇映画音楽全般

件名	映画音楽	前方一致
----	------	------

◇アニメ映画の音楽を探す

件名	アニメーション映画音楽	前方一致
----	-------------	------

◇無声映画の音楽を探す

件名	無声映画音楽	前方一致
----	--------	------

<サウンドトラックを探す>

サウンドトラックの件名を使います。

件名	映画サウンドトラック	前方一致
----	------------	------

※ほかに

- ・映画そのものも、作品名や監督名、件名「映画」などで探せます。資料の種類を「映像資料」に限定します。
- ・映画ではなくテレビ用の音楽の場合は、件名「テレビジョン音楽」「アニメーション テレビジョン音楽」「テレビジョン サウンドトラック」で探します。

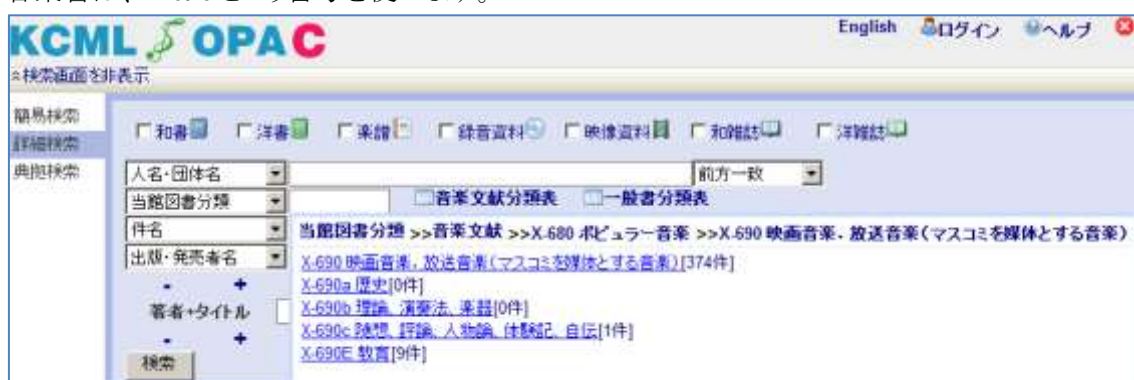
● 図書を探すとき

<映画音楽全般について探す>

図書をジャンルから探すときは「当館図書分類」という検索項目を使います。

検索項目を選ぶと検索できる分類番号が表示されるので、探したい番号を選びます。

音楽書は、X-690 という番号を使います。



一般書は、778 という番号です。音楽に限らない、映画についての図書を探せます。



<特定の作品について探す>

タイトルに作品名を入れて探します。

探せないときは、フレーズ検索や検索項目「注記」も試してください。

※映画や映画音楽に関する辞典や年鑑は、参考図書室にあります。

音楽書は分類番号 X-094 (映画音楽・放送音楽に関する参考図書)の棚、一般書は 778 (映画)の棚を見てください。

サイレント時代の映画音楽作曲家

文学や演劇の伝統の根強いフランスでは、大作曲家サン・サーンスが「ギーズ公の暗殺」(1908)のための音楽(Op.128)を書いたのを皮切りに、多くの知名作曲家が映画音楽を作曲し、それらはいずれもオリジナリティに富んだものであった。

アメリカではオペレッタの作曲家ジョセフ・カール・ブレイルがフランス映画「エリザベス女王」のために書いた音楽が最初といわれ、1911年頃からオリジナル・スコアが書かれはじめ、D. W. グリフィス監督の「国民の創生」(1915)、「イントレランス」(1916)にもスコアが付けられたが、それらはフォスターやワーグナーなどの既成曲を編曲した程度のもに過ぎず、サイレント時代のアメリカ映画において知名の作曲家が映画音楽を書いた例はきわめて少ない。

ここでは、サイレント映画時代に活躍した4人の作曲家と彼らの代表的な映画音楽(関連)作品を紹介する。

●サン・サーンス, カミーユ Saint-Saëns, Camille (1835~1921)

「ギーズ公の暗殺」 L'assainat du Duc de Guise (1908)

誕生時の映画は低俗な娯楽物と見られていたが、フランスでは1908年頃から、映画を芸術のジャンルに高めようとする機運が盛り上がった。これが“フィルム・ダール”と呼ばれる芸術映画の最初の動きである。「フィルム・ダール社」が設立され、その第1作がコメディ=フランセーズ所属の舞台俳優が出演した「ギーズ公の暗殺」(アルベール・カルメット監督)。

この作品に当時73歳の作曲家サン・サーンスが映画史上、初めて映画のためのオリジナルスコアを作曲した(オケの演奏を録音して上映の際にはディスクの形)。彼は映画の画面を頭に入れ、全篇5個所のQ(音楽開始のサイン)まで指定してあったという。

内容は16世紀のフランスの宗教戦争を背景として、1588年にアンリ3世がギーズ公を殺害する史実を映画化したもの。1908年11月に上映されたが、芸術的な試みとしてはあまり成功したとは言えなかった。

●オネゲル, アルテュール Honegger, Arthur (1892~1955)

「鉄路の白薔薇」 La roué (1922)

「フランス6人組」の一人として名を連ねてはいたものの、音楽美的にはその6人が一致を見ていたわけではなく、特にオネゲルは孤立した姿勢をとっていた。

巨匠アベル・ガンス監督との出会いは彼を映画に導き、作品を幅広いものにした。「鉄路の白薔薇」(1922)に続いて「ナポレオン」(1927)では総力を傾け、当時センセーショナルをまき起こした。機関車が主人公というべき前者から構想を得て、映画の翌年、大陸横断鉄道を描いた交響的楽章第1番《パシフィック 231》を発表した。

この作品は、交響的断章3部作の最初を飾るもので、題名は当時の蒸気機関車の名。蒸気機関車を「女性や馬を愛するように」愛好していたオネゲルは、この作品について「蒸気機関車が発する音をそのまま模倣するのではなく、視覚的な印象と肉感的な歓喜を音楽的な構築によって翻訳したものである」と語っている。

彼は映画音楽では50以上の映画に音楽を作曲しており、無声映画時代からトーキーまで長い

キャリアを誇る。

●サティー, エリック Satie, Erik (1866～1925)

「幕間」シネマ Relâche.Cinéma (1924)

1924年11月、サティは最後の作品となった“刹那主義的バレエ”「本日休演」(2幕)の音楽を作曲し、ダダ、シュルレアリスム運動の先鞭をつけた。

この曲は第1幕と第2幕の休憩時間、つまり“幕間”に上映されるシネマ(映画)の伴奏音楽。従って正式の曲名としては《シネマ、“本日休演”の交響的幕間》。監督:ルネ・クレール。原曲はオーケストラ曲でサティはピアノ独奏版も同時に作曲。後に、ミヨーが4手連弾ピアノ曲版に編曲(1926出版)。サティは映画音楽を作曲したのみならず、ダダイストたちとともにみずから映画に出演した。無声映画時代の先駆的な映画音楽の実験として、映画音楽史に残る重要な作品としても知られている。

後にルネ・クレールが、ピカビア(脚本他を担当)やサティと一緒に仕事をしたときの思い出を語った際、「…このバレエがなぜ“刹那主義的”なのかは結局よくわからなかった…」と述べている。(J102-235『エリック・サティ』より)

●ショスタコーヴィチ, ドミートリ Shostakovich, Dmitriï Dmitrievich (1906～1975)

「新バビロン」 Novyi Vavilon (1929)

現代作曲家のなかで、ショスタコーヴィチほど質・量ともに映画に貢献した人も珍しく、学生時代から無声映画のピアノを弾き、その後40数年にわたって、短編映画を含めて35作もの映画作品を書いた。

《新バビロン》はショスタコーヴィチ第1作目の映画音楽であり、コージンツェフとトラウベルグ共同監督の「新バビロン」(1929)のために作曲。この作品はパリ・コミューン期におけるパリの百貨店「新バビロン」の女性店員ルイーズと、抵抗戦線で知り合った兵士の恋人ジャンとの物語で、パリ・コミューンとその敗北を描いている。

オフエンバック《美しきエレヌ》《天国と地獄》、フランス国歌《ラ・マルセーエーズ》など既成曲の引用が所々に見られるが大部分はオリジナルであり、当時23歳のショスタコーヴィチの才気をうかがわせる。しかし、前衛的な映像は当時の政治体制からはみだしており、又、音楽の演奏もひどいものだったので失敗に終わった。

映画史年表 ～日本を中心に～

1895(明治 28)年
12月、パリでリュミエール兄弟によるシネマトグラフが初上映される
1897(明治 30)年
2月、大阪でシネマトグラフが初上映される
1899(明治 32)年
7月、東京歌舞伎座で最初の国産映画が公開される
1900(明治 33)年

初の劇映画「ピストル強盗清水定吉」製作される
1902(明治 35)年
メリエス「月世界旅行」製作(世界初のストーリー映画)
1903(明治 36)年
初の常設映画館が東京浅草にオープン
1927(昭和 2)年
10 月、「ジャズ・シンガー」公開(世界初のトーキー映画)。日本初のトーキー映画「黎明」(正式公開ではない)音楽は山田耕筰
1931(昭和 6)年
初の本格的トーキー映画「マダムと女房」松竹(監督五所平之助)公開
1945(昭和 20)年
戦後最初の映画企画松竹映画「そよ風」が並木路子の挿入歌「リンゴの唄」とともに大ヒット。戦後初の洋画「ユーコンの叫び」が公開される
1949(昭和 24)年
自主規制のための機関「映倫」発足。「青い山脈」が大ヒットし一大ブームとなる
1950(昭和 25)年
外国映画の輸入が自由化される。「宗方姉妹」興行収入第一位のヒット作となる
1951(昭和 26)年
初の国産カラー映画「カルメン故郷に帰る」公開
1953(昭和 28)年
「ひめゆりの塔」が大ヒットし、戦争映画のブームが起きる。テレビの本放送開始(NHK)。「君の名は」が大ヒットし社会現象となる
1954(昭和 29)年
この頃、日本映画が海外で多くの賞を獲得し黄金時代を迎える。「羅生門」「雨月物語」「山椒大夫」「七人の侍」「地獄門」など
1958(昭和 33)年
「嵐を呼ぶ男」のヒットにより裕次郎ブーム本格化。日本初の長編カラーアニメ映画「白蛇伝」公開
1959(昭和 34)年
皇太子と美智子妃の結婚により、テレビが急激に売れ始め、155 万台から 346 万台に増加
1960(昭和 35)年
映画の製作本数が 547 本、映画館数 7457。ともにこの年がピークとなる
1964(昭和 39)年
「愛と死をみつめて」で吉永小百合ブームが起こる。テレビのカラー放送開始。全国の映画館数が 5000 をきる
1970(昭和 45)年
国立フィルムセンター開設
1972(昭和 47)年
映画館入館者数が 2 億人をきる
1975(昭和 50)年

洋画の興行収入が邦画を上回る。東映太秦映画村がオープン
1979(昭和 54)年
「銀河鉄道 999」「ルパン三世」などのヒットからアニメ映画時代始まる
1983(昭和 58)年
「男はつらいよ」シリーズがギネス・ブックの映画の最長シリーズとして認定。「南極物語」日本映画史上最高のヒット作となる
1986(昭和 61)年
六本木、渋谷に単館劇場が続々とオープン。海外からの輸入映画の多様化が進み、邦画離れが進む
1987(昭和 62)年
レンタル・ビデオが急速に普及
1988(昭和 63)年
ミニシアターのブームにより、外国映画の封切りが急増。「敦煌」超大作大ヒット
1990(平成 2)年
ビデオによる映画人口が 7～8 億人に達する
1993(平成 5)年
シネコン(複合型映画館)の建設が本格化
1996(平成 8)年
映画人口が戦後最低となる
1997(平成 9)年
「もののけ姫」が史上最高の興行記録達成
2000(平成 12)年
韓国映画「シュリ」が大ヒット。韓国映画のブーム始まる。デジタル方式による公開開始
2001(平成 13)年
シネコンの浸透・各種メディア企業の製作参加により、斜陽とも言われた映画産業がこの頃から復活を遂げる。年間興行収入 2,000 億円に乗る(日本映画史上初)
2004(平成 16)年
入場者数 20 年ぶりに 1 億 7,000 万人の大台に乗る。「ハウルの動く城」ヒット
2005(平成 17)年
3D(立体)映画初登場(「チキン・リトル」デジタル上映)
2006(平成 18)年
日本映画の興行収入、21 年ぶりに外国映画を上回る
2008(平成 20)年
「崖の上のポニョ」大ヒットにより大幅な集客増
2010(平成 22)年
年間興行収入過去最高を記録(2,207 億 3,700 万円)。3D 作品ヒット
2011(平成 23)年
スクリーン数 18 年ぶりに減少。シネコン頭打ち

参考: ・「20 世紀邦画史」「ポップの世紀—20 世紀ポップカルチャー史」

<http://www.3.ocn.ne.jp/~zip2000/japanfilm.htm>

・”日本映画” 映画年表 (日本)、日本大百科全書(ニッポニカ)

日本アカデミー賞

日本アカデミー賞協会の目的:「わが国の映画芸術、技術、科学の向上発展のために日本アカデミー賞を設け、その年度の該当者に栄誉を与えると共に、本会の行う諸事業を通じて、会員相互の親睦ならびに海外映画人との交流を計り、もってわが国映画界の振興に寄与すること」。

第1回受賞作品は「幸福の黄色いハンカチ」監督・山田洋次(1978年)。

受賞結果についてはHP「受賞結果一覧」参照

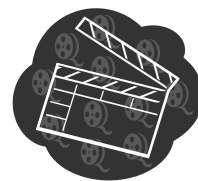
<http://www.japan-academy-prize.jp/index.php> 日本アカデミー賞公式サイト

毎日映画コンクール

コンクールの歴史は、戦前 1935 年までさかのぼり、毎日新聞がまだ東京日日新聞と称していた年に「全日本映画コンクール」が開催された。現在の「毎日映画コンクール」となったのは 1946 年、第1回日本映画賞受賞作は「或る夜の殿様」(監督・衣笠貞之助)。その歴史はカンヌ国際映画祭より古く、国内では「キネマ旬報ベスト・テン」に次ぐ長さであり、賞の多様さにおいても、あまたの映画賞の中で特別、との事。

受賞結果についてはHP「コンクールの歴史」参照

<http://mainichi.jp/enta/cinema/mfa/> 毎日映画コンクール-毎日 jp(毎日新聞)



「街に出よう!」～映画館以外で映画を見られるところ～

東京国立近代美術館フィルムセンター

日本で唯一の国立映画機関。映画の博物館・資料館として、大小ホールでの上映、企画展示など。図書室もあり。 <http://www.momat.go.jp/FC/fc.html>

東京都写真美術館

写真と映像の専門美術館。1階ホールで若手新進監督の映画作品などの映画を上映。

<http://syabi.com/contents/exhibition/movie-1708.html>

京都府京都文化博物館 フィルムシアター

京都で製作された作品を中心に 780 作品を所蔵。収集フィルムの上映、ポスター、シナリオなどの映画関係資料を展示。 http://www.bunpaku.or.jp/exhi_film.html

福岡市総合図書館 フィルムアーカイヴ

アジアのフィルムアーカイヴを目指して、アジア各国の貴重なフィルムを収集・保存し、映像ホールで上映。 http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/theater_schedules/

展示資料

パネル

リュミエール兄弟

(左:兄オーギュスト 1862~1954、右:弟ルイ 1864~1948)

出典:Britannica Image Quest File Name : 102_521027-W.jpg

フランスの映画発明者。ほぼ同時期に同様の技術を発明したアメリカの発明王トーマス・エジソンと並んで「映画の父」と呼ばれている。エジソンの発明は、箱の中をのぞくと映画が見られるキネトスコープという装置だったが、兄弟の発明したものはシネマトグラフと呼ばれる。

「ラ・シオタ駅への列車の到着」

出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』「ラ・シオタ駅への列車の到着」

リュミエール兄弟は 1895 年 2 月 13 日に特許を取得、同年 12 月 28 日に世界初の実写映画「リュミエール工場の出口」をパリで有料公開した。よって 1895 年は映画生誕の年とされる。他に「ラ・シオタ駅への列車の到着」「水を撒かれた水撒き人」等の短編映画製作や、日本を含む世界各国に撮影技師を派遣して各地の風物や日常生活を撮らせた。「ラ・シオタ駅への列車の到着」では、向かってくる汽車を見て観客が大騒ぎしたという伝説を生んだ(異説あり)。

メリエス、ジョルジュ(1861~1938)

出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』「ジョルジュ・メリエス」

映画創成期に活躍したフランスの映画製作者。彼はパリのロベール・ウーダン劇場で奇術や夢幻劇を上演していたが、リュミエール兄弟のシネマトグラフを見て映画に注目、豊富なトリックを駆使して空想的世界を描いた作品を多数生み出した。世界初の職業映画監督と称される。しかし、同じ手法の繰り返しに飽きられ、急速に不振となり晩年は不遇であった。2011 年公開の映画「ヒューゴの不思議な発明」(米)にメリエスが登場、彼の晩年の姿が描かれている。

「月世界旅行」

出典:Britannica Image Quest File Name : 144_1525364-W.jpg

メリエスが 1902 年に製作した彼の代表作。世界初のストーリー映画といわれ、無声映画の傑作のひとつと評価されている。内容は大幅に簡略化されているが、原作はジュール・ヴェルヌの同名作品。小説を元に映画化するという、現在の映画産業でも頻繁に使われるようになった手法を、世界で初めて取り入れたという意味でも、世界初の革新的な映画。彼は巨大なセットと自分で発明した撮影トリックを駆使して「人類が月世界に行く」という物語を描き出した。

「ジャズ・シンガー」(The Jazz Singer)

出典:Britannica Image Quest File Name : 144_1492404-W.jpg

映画が誕生した約 100 年前には、フィルムに音を入れる部分(サウンドトラック)はなく、スクリーンに画面が映るだけという沈黙の映像の世界だった。本作は 1927 年 10 月 6 日にワーナー・ブラザーズ(米国)が公開したヴァイタフォン方式(ディスクを使った音響装置)を採用した世界初のトーキー(発声映画)。部分的なトーキーだったが、驚異的な興行収入を記録し「You ain't heard nothin' yet! (お楽しみはこれから!)」というセリフが、映画史上初めてのセリフとして有名。

「マダムと廿房」

出典:『流行歌と映画でみる昭和時代』遠藤憲昭編；葦原邦子解説

東京：国書刊行会、1986（請求記号●R778.2/R/1）

「モロッコ」等の外国映画に刺激され日本でもトーキー映画製作が着手されたが、その第 1 作に成功したのは松竹映画。1931(昭和 6)年公開、五所平之助監督。土橋武夫・晴夫兄弟が研究した土橋式トーキー使用の本格的トーキー映画。従来の発声する為だけに作られた様な試作品の域を越え、風刺のきいたコミカルな作品で日本のトーキー映画時代開幕を決定づけた。この後、映画会社が続々とトーキー作品に切り換えた為、弁士や楽士達の失業問題が起こったという。

「カルメン故郷に帰る」

出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』「カルメン故郷に帰る」

1951年木下恵介監督による日本映画(松竹)。また、高峰秀子の同名の主題歌。日本最初の総天然色映画。国産カラー(フジカラー)による長編映画の画期的な試みであったが(ロケ地もカラー効果をねらって、浅間山が背景に見えるふもとの村が選ばれた)、まだカラーが全面的に信用できない段階で、同時にモノクロでも撮影されたので、2本の作品がある。カラー作品の公開は東京・大阪などの大都市だけで、地方ではモノクロ作品が公開された。

「そよかぜ」

出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』「そよかぜ」

1945年10月公開、佐々木康監督作品(松竹)。戦後のGHQ(連合国軍総司令部)の検閲を通った第1号映画。挿入歌《リンゴの唄》は大ヒットとなった。レビュー劇場の照明係で歌手志望の少女みちが、楽団員たちに励まされ、やがて歌手としてデビューするという「スター誕生」物語。主演には当時23歳の新人歌手、並木路子が抜擢され《リンゴの唄》を歌った。ほかに霧島昇や二葉あき子も出演しており、音楽映画の一面もある。主題歌は《そよかぜ》。

●図書

<映画全般>

佐藤忠男『日本映画史』全4巻 増補版

東京:岩波書店,2006 請求記号●J109-560

1995年発行の増補版。1~3巻は年代別、4巻はその他の視点や年表・索引など。各ページの下に関連写真があり、知らない映画の話でもイメージしやすい。

岩本憲児編『日本映画の歴史:写真・絵画集成』全3巻

東京:日本図書センター,1998。(ビジュアル版日本文化史シリーズ)

請求記号●第1巻J87-190、第2巻J87-191、第3巻J87-192

第1巻「映画の誕生」、第2巻「映画の黄金時代」、第3巻「現代の映画」からなる。映画のシーンの写真だけでなく、撮影風景やポスター、プログラムなども。

塚田嘉信『日本映画史の研究:活動写真渡来前後の事情』

東京:現代書館,1980 請求記号●J66-115

明治29年のキネトスコープ《のぞき眼鏡式活動写真》の渡来前後の新聞記事などを収録。文字のみの資料は原文のまま、挿絵入りの資料はできるだけ図版にし、オリジナルの状態が分かるように掲載されている。

富士田元彦『日本映画史の創出:時代を映す鏡』

東京:五柳書院,1983。 請求記号●J64-525

昭和10~20年代の日本映画からの基本的な視点、1930年代の作家、昭和初年の映画運動、時代劇など。掲載写真には映画名だけでなく俳優名もあり。

升本喜年『人物・松竹映画史:蒲田の時代』

東京:平凡社,1987。 請求記号●J65-174

松竹キネマ蒲田撮影所の、大正九年の開設から昭和十一年の大船への移転まで。所長の城戸四郎(のちの松竹社長)を中心とした人々の動きがよくわかり、小説のように楽しめる。

児井英生『伝・日本映画の黄金時代』

東京:文芸春秋,1989 請求記号●J66-342

明治41年生まれ、152本もの映画を手掛けたプロデューサーの自伝。

今村昌平(ほか)編『講座日本映画』

1 日本映画の誕生；2 無声映画の完成；3 トーキーの時代；4 戦争と日本映画；
5 戦後映画の展開；6 日本映画の模索；7 日本映画の現在；8 日本映画の展望

東京：岩波書店，1985～1988 請求記号●J64-197～J64-204

「日本映画のこれまでの歩みの全体を総合的に視野におさめようというもの」(まえがきより)。映画史、シナリオ史、対談など。

伴野孝司、望月信夫『世界アニメーション映画史』

東京：ぱるぷ，1986。(Anima-life books). 請求記号●J57-491, J65-094

アニメーションの始まりから、1980 年半ばまでの各国の状況まで。

<作品>

佐藤忠男『みんなの寅さん：「男はつらいよ」の世界』

東京：朝日新聞社，1988. 請求記号●J64-166

『全集黒沢明』全 6 冊

東京：岩波書店，1987-1988. 請求記号●J60-687～692

各作品のシナリオ、作品解題だけでなく、写真つきのシナリオ注釈やメモ、スタッフ一覧表、随筆などもあり。作品批評も収録。

『上田秋成集』中村幸彦校注

東京：岩波書店，1959。(日本古典文学大系；56) 請求記号●J18-704

映画『雨月物語』の原作を収録。

森鷗外『山椒大夫・高瀬舟』

改版。東京：新潮社，1985。(新潮文庫) 請求記号●J79-070

映画『山椒大夫』の原作。

<映画音楽>

岡俊雄『フィルム・ミュージック：世界映画音楽事典』

[東村山]：教育社，1988. 請求記号●C45-436, C54-300, X-094/F 参考図書室開架

映画音楽史、名作映画 100 選、映画音楽家 101 人の解説など、これ一冊で映画音楽がわかる本。音楽家の伝記映画、オペラ映画などの項目もある。

大日方俊子『映画音楽おもしろ雑学事典：知ってるようで知らない』

東京：ヤマハミュージックメディア，2009. 請求記号●J116-188

前半は歴史的に、後半は監督やジャンルなどから解説。よく使われるクラシック音楽の作曲家ランキング、年代別ヒット映画主題歌、各種音楽賞受賞一覧など。一つの項目が短いので読みやすい。

西村雄一郎『シネマ・ミーツ・クラシック：94 人の大作曲家が書いた映画音楽』

東京：音楽之友社，2000. 請求記号●C64-714

作曲家ごとに使われた曲と映画を説明。たとえば《ドン・ジョバンニ》は「虚栄のかがり火」「郵便配達は二度ベルを鳴らす」「バベットの晩餐会」に使われている。

柳生すみまろ『映画音楽：その歴史と作曲家』

東京：芳賀書店，1985。(シネブックシネブック). 請求記号●C8-760

映画音楽の歴史、34 人の作曲家の解説、映画音楽のレコード一覧からなる。あとがきによれば、日本映画の音楽には言及していない、秋山邦晴『日本の映画音楽史』(田畑書店)を薦める、とのこと。

野口久光監修『世界映画音楽大事典』

東京：キネマ旬報社, 1971.(キネマ旬報増刊) 請求記号●C14-633
作品名辞典、映画の歴史、映画音楽作曲家名鑑など。

<日本の映画音楽>

秋山邦晴『日本の映画音楽史. 1』

東京：田畑書店, 1974. 請求記号●C22-618, C22-619
日本の映画音楽の創成期から1954(昭和29)年まで。作曲家と作品の項目では、山田耕筰、深井史郎、早坂文雄などの自筆スケッチや楽譜もあり。 ※第2巻は未刊と思われる。

小林淳『日本映画音楽の巨星たち』

1 早坂文雄/佐藤勝/武満徹/古関裕而 ; 2 伊福部昭/芥川也寸志/黛敏郎 ; 3 木下忠司/團伊玖磨/林光

東京：ワイズ出版, 2001-(2002) 請求記号●1: C65-545, 2: C65-546, 3: J96-466
各作曲家について、代表作の「オープニングからエンディングまでの流れを押さえながら音楽演出の形態を探っていく、その人の人物像、音楽的特徴、さらには映画音楽以外での創作・芸術活動も見つめていく。」(あとがきより)

<作曲家たち>

佐藤勝『300/40 その画・音・人』

東京：キネマ旬報社, 1994. 請求記号●C61-859
卒業生でもある作曲家佐藤勝の自伝。出身地の北海道留萌からの上京、早坂文雄の内弟子になり、数々の映画音楽を作曲するまで。『キネマ旬報』に連載された談話をまとめたもの。

佐藤勝『音のない映画館』

東京：立風書房, 1986. 請求記号●J65-323
佐藤勝 VS 和田誠対談。ほか短文4点を収録。

小林淳; 井上誠共編『伊福部昭の映画音楽』

東京：ワイズ出版, 1998. 請求記号●C62-503
1946年から1995年まで、代表的な映画を中心に、純音楽作品、インタビュー内容なども掲載。全映画年表、映画音楽総譜情報一覧あり。

秋山邦晴『シネ・ミュージック講座：映画音楽の100年を聴く』

東京：フィルムアート社, 1998. 請求記号●C63-347
秋山邦晴のNHKFMラジオの原稿と、武満徹とのトークショーをまとめたもの。二人で映画音楽の歴史を語り明かして一冊の本にするプランがあったが、両氏の急逝で果たせなかったため、代わりにまとめられた。

穂実重彦; 武満徹『シネマの快楽』

東京：リポポート, 1986. 請求記号●C44-948
文芸・映画評論家でベネチア国際映画祭審査委員長も務めたフランス文学者の穂実重彦と、多数の映画音楽も手掛けた作曲家武満徹の対談集。

武満徹『映像から音を削る：武満徹映画エッセイ集』

東京：清流出版, 2011. 請求記号●J120-990
無類の映画狂である作曲家武満徹の、主に映画・映像がテーマのエッセイ集。「映画に音楽を付け加えるというより、映画から音を削るということの方を大事に考えている」という彼の映画音楽方法論は重要な論考である。

<大型本>

スティーヴン・J.サンズイート, ピーター・ヴィルマー 共著 ; 武田英明訳
『スター・ウォーズ・ヴォールト : 貴重写真と製作秘話、秘蔵品レプリカが語る、歴史的映画
の30年』

東京 : 講談社, 2007 (シリーズ 講談社トレジャーズ) 請求記号●J120-865

クリストファー・フィンチ ; 前田三恵子訳 『ディズニーの芸術』

東京 : 講談社, 2001 請求記号●J105-544

Christopher Finch ; With a special essay by Peter Blake.
“The art of Walt Disney : from Mickey Mouse to the Magic Kingdoms”

New York : H. N. Abrams, [1973] 請求記号●J73-429

『サウンドトラック・パラダイス. ヨーロッパ篇』

東京 : バーン・コーポレーション, 1998 請求記号●C62-418

“The album cover art of soundtracks”

edited by Frank Jastfelder & Stefan Kassel ; foreword by Saul Bass 1st ed.

Boston, [Mass.] : Little, Brown, c1997 請求記号●J86-270

●楽譜

<初期時代の作品関連>

“L’assassinat du Duc de Guise : tableaux d’histoire (op. 128)”

scenario d’Henri Lavedan ; musique de C. Saint-Saens ; partition pour piano a deux mains [par Leon Roques]

Paris : A. Durand, c1908 請求記号●G16-410

Honegger “Pacific 231 : mouvement symphonique”

Paris : Editions Salabert, c1924 請求記号●E4-027

Honegger “Pacific 231 : mouvement symphonique pour orchestre”

London ; New York : E. Eulenburg, c1986 請求記号●E10-464

Satie “Relache : ballet instantaneiste en deux actes, un entr’acte
cinematographique, et “la queue du chien””

scenario de decors de Francis Picabia ; cinematographie de Rene Clair ; le ballet seul pour piano avec
un frontispice de Francis Picabia.

Paris : Rouart, Lerolle, c1926 請求記号●G14-098

Satie “Cinema : entr’acte symphonique de “Relache””

reduction pour piano a 4 mains par Darius Milhaud

Paris : Rouart Lerolle, c1926 請求記号●G14-100

Shostakovich “New Babylon : Music to the Silent Film op. 18”

New Collected Works XIVth Series : Film music 122nd Volume

Moscow : DSCH Publishers, 2004 請求記号●A12-577

Shostakovich “Valcy iz kinofil'nov : dli'a` simfonicheskogo orchestra”

Moskva : Sov. Kompozitor, 1959 請求記号●H12-591

<日本映画史>

「宮崎駿/アニメ主題歌合唱曲集：女声3部合唱」

Tokyo : ドレミ楽譜, 2011 請求記号●F26-783

「もののけ姫：ピアノ・ソロ・アルバム：楽しいバイエル併用」

東京 : ドレミ楽譜, 1997 請求記号●G26-956

「青い山脈」服部良一作曲；石上礼男編曲

[東京]: 全音楽譜出版社, c1967 (全音プラスバンド楽譜 ; ZB-10) 請求記号●H13-680

石上礼男の編曲による吹奏楽用楽譜

<映画賞受賞作から>

「紅の豚：イメージアルバムより」久石譲作曲

東京 : ヤマハ音楽振興会, 1992 請求記号●G23-885

「千と千尋の神隠し：ピアノで弾く：イメージアルバム」久石譲作曲

東京 : ヤマハミュージックメディア, 2001 請求記号●G28-792

「日本映画音楽ピアノ・コレクション：ピアノ・ソロ」

東京 : ドレミ楽譜, 2003 請求記号●G29-650

菊次郎の夏 --[カンゾー先生] -- Theme for Huchung ほかに収録

「日本映画 & TV テーマ ベスト・コレクション：ピアノ・ソロ」

東京 : Doremi, 2006 請求記号●G31-286

映画「極道の妻たち」；失楽園：映画「失楽園」ほかに収録

「崖の上のポニョ：サウンドトラックより：piano solo」

東京 : ヤマハミュージックメディア, 2008 請求記号●G32-002

●映像資料・録音資料

<初期時代の作品関連>

「ピアノ五重奏曲 イ短調 作品 14；ギーズ公暗殺事件；映画音楽；作品 128；動物の謝肉祭；室内楽版/カミコ・サン＝サーンス」

アンサンブル・ミュージック・オブリク (1993年録音)

France : Harmonia Mundi France, p1993 ; [東京]: [輸入・発売元]: キングインターナショナル, 1994 請求記号●XD28930

「火刑台上のジャンヌ・ダルク de Paul Claudel, et Arthur Honegger」

監督・脚色: ロベルト・ロッセリーニ、演奏: パリ・オペラ座合唱団 (1954年作品)

[東京]: アイ・ヴィー・シー, 2003 請求記号●VX350

オラトリオの映画化

“Film music / Honegger”

Adriano, [conductor], CSR Symphony Orchestra (Bratislava) (1987 年録音)

[Hong Kong]: Marco Polo, p1988 請求記号●XD6044

内容: Les misérables-- La roue: overture-- Mermoz: 2 suites for orchestra-- Napoleon: suite d'orchestre

“Les misérables: complete film score / Arthur Honegger”

Adriano, conductor, Slovak Radio Symphony Orchestra (Bratislava) (1987 年録音)

[S.l.]: Marco Polo, [1990?] 請求記号●XD12489

“Pacific 231 / Honegger, Firebird; Petrouchka / Stravinsky”

Hermann Scherchen, conductor, Royal Philharmonic Orchestra (1954 年録音)

[Tokyo]: Westminster, 1999 請求記号●XD41974

「エリック・サティの世界；誤解と理解」 A film by Felix Breisach

Produced and distributed by EuroArts Music

[東京]: パイオニア LDC, 2002 請求記号●VE373

名匠ルネ・クレールが無名時代に監督したサティ本人出演の映像“シネマ”の一部、本人やブーレーズらによるコメントが散りばめられたユニークなドキュメンタリーを収録

第3曲は室内楽版による演奏

「家具の音楽；名作選 / サティ, ドビュッシー」

マリウス・コンスタン[他] 指揮, アルス・ノヴァ合奏団[他] (1967 年[他] 録音)

[Tokyo]: Erato, 1996, p1967 請求記号●XD43856~7

バレエ《本日休演》の幕間「映画」のための音楽、収録

“Film music / Shostakovich”

James Judd, conductor; Berlin Radio Symphony Orchestra, (1989~90 年録音)

Konigsdorf: Capriccio, p1990 請求記号●XD11105~6

The new Babylon -- Five days-five nights 収録

“From Jewish folk poetry; New Babylon / Dmitri Shostakovich”

Valeri Polyansky, conductor; Russian State Symphony Orchestra (1995,96 年録音)

England: Chandos; 日本: 輸入・発売元: 東京エムプラス, 1998 請求記号●XD44094

第2曲は、映画のシナリオの各主要部分に対応した、ロジェストヴェンスキーによる組曲編曲版

“The film music of Dmitri Shostakovich, Volume 1 ”

Vassily Sinaisky, conductor; BBC Philharmonic (2002 年録音)

Colchester, Essex, England: Chandos, p2002; [東京]: 輸入・発売: 東京エムプラス 請求記号●XD52068

第1曲は、「マクシム三部作」と呼ばれる映画のうち「マクシムの帰還」の音楽から6曲と、1919年の映画「忘れがたき1919年」の音楽から2曲を編曲し組曲にまとめたもの; 第3-4曲は抜粋

“The film music of Dmitri Shostakovich, Volume 2”

Yuri Torchinsky, leader; Vassily Sinaisky, conductor; BBC Philharmonic (2003 年録音)

Colchester, Essex, England: Chandos, p2004 請求記号●XD53247

< 日本映画史 >

「敦煌」[井上靖原作；佐藤純彌監督作品]

[東京]: 発売・販売: 角川映画, 2004 請求記号●SM00069

1988年6月25日公開の日本映画。井上靖の小説「敦煌」を映画化。日本アカデミー賞・最優秀作品

賞・監督賞受賞作品受賞(1989年)。

「兩月物語」

[東京]: 大映(発売元): 徳間ジャパンコミュニケーションズ(販売元), [199-] (大映ビデオミュージアム) 請求記号●VB2632

監督溝口健二の代表傑作。怪奇文学の父、上田秋成の原作をもとにモーパッサンの「勲章」を加え、川口松太郎と依田義賢が脚色。海外でも評価が高く、53年ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞はじめ数々の受賞に輝く。

「黒澤明 映画音楽全集」

[東京]: ファンハウス, 1991 請求記号●XD14713~7

「早坂自身が語っているように、この映画音楽はたしかに裸のオーケストレーションの音楽である。旋律が裸のまま生き生きと語りかける音楽である。」音楽解説: 秋山邦晴

「服部良一全集. 4」

[Tokyo]: Columbia, 1992 請求記号●XD20802

《青い山脈》西條八十作詞、服部良一作曲 東宝映画「青い山脈」昭和24・7・19、26封切
石坂洋次郎の青春小説の第1回映画化の主題歌で、映画ともに大ヒットした。明るい旋律は、戦後歌謡の代表作となり現在も愛好され続けている。

「七人の侍：早坂文雄の芸術：管弦楽作品集」

Tokyo: Firebird, 2000 請求記号●XD43346

「黒澤は映像同様、サウンドトラックも意のままに操ろうとした監督であり、よって当然ながら音楽の注文も極めて細かく具体的だった。早坂はそういう黒澤の協力者として徹底して付き合い、その要求をよく汲み、また逆に黒澤に音響演出面での感化や靈感を与えた」(解説より)

「SP 盤復刻による 日本映画主題歌集. 8. (1949~50)」

[東京]: 日本コロムビア, 1996 請求記号●XD55833

「SP 盤復刻による 日本映画主題歌集. 11, 戦後編. 1953~54」

[Tokyo]: Columbia, 1997 請求記号●XD55836

《君の名は》菊田一夫作詞、古関裕而作曲 松竹映画「君の名は」昭和28・9・15封切
昭和27年4月から始まったNHK連続放送劇「君の名は」は全国の女性をラジオの前に釘づけにし、「木曜の晩8時半から銭湯の女湯が空になる」といわれたほどの人気ぶりだったという。

「服部良一」

[Tokyo]: Universal Music, 2007 請求記号●XD66672

服部良一誕生100周年を記念して、子息の克久と孫の隆之がプロデュースしたトリビュート・アルバム。佐藤しのぶ〜関ジャニまで、その振幅が楽しい。

<映画賞受賞作から>

天野正道作曲・編曲 「パロル・ロワイヤル ; オリジナル・サウンドトラック」

ポーランド国立・ワルシャワ・フィルハーモニック・オーケストラ ; 天野正道, 指揮

[Tokyo]: Volcano Records, 2000 請求記号●XD53871

山下洋輔作曲・ピアノ 「カンソー先生」

[Tokyo]: Verve, 1998 請求記号●XD59869

久石譲音楽 「おくりびと ; オリジナル・サウンドトラック」

[Tokyo]: Universal, 2008 請求記号●XD61847

大島ミチル音楽「北の零年；オリジナル・サウンドトラック」

[Tokyo] : Jroom Instrumental, 2005 請求記号●XD64055

大島ミチル音楽「明日の記憶；オリジナル・サウンドトラック」

[Tokyo] : Sony Music Japan International, 2006 請求記号●XD64058

大島ミチル音楽「眉山；オリジナル・サウンドトラック」

[Tokyo] : Victor, 2007 請求記号●XD64060

●AV 資料室掲示板

「生きものの記録」

監督: 黒澤明、音楽: 早坂文雄 (1955 年度作品)

Tokyo : Toho Co., [20--?] 請求記号●SM00002

「用心棒」

監督: 黒澤明、音楽: 佐藤勝 (1961 年度作品)

Tokyo : Toho Co., [20--?] 請求記号●SM00014

「雨あがる」

監督: 小泉堯史、音楽: 佐藤勝 [1999 年, 日本映画]

[東京] : アスミック, c2002 請求記号●SM00075

「羅生門」

監督: 黒澤明、音楽: 早坂文雄 (1950 年作品)

[東京] : 大映 (発売元) : 徳間ジャパンコミュニケーションズ (販売元), [199-] 請求記号● VB2628

原作: 芥川龍之介の短編小説「藪の中」

「七人の侍」

監督: 黒澤明、音楽: 早坂文雄 (1954 年度作品)

東京 : 東宝 (発売元), [199-] 請求記号●VB2634

"Music for the movies--Toru Takemitsu"

Directed by Charlotte Zwerin

New York : Sony Classical Film & Video, c1995 請求記号●VB2887

付: 解説 (英語, ドイツ語, フランス語)

「ショスタコーヴィチ；音楽記録映画」

監督: A. ゲルデルシテイン (1967 年ソ連映画)

[東京] : 東映, [198-] 請求記号●VD169

映画音楽「マクシムムの帰還」作品 45 より -- 映画音楽「ハムレット」: 作品 116 第 34 曲「葬送」 -- 映

画音楽「馬虻」: 作品 97 第 3 曲「青春」 --他、収録

「日本シネマ館 / 武満徹」

林光[他]指揮、鯉沼利成 新日本フィルハーモニー、他 (1987 年録音)

[東京] : 製作・発売元: ビデオアーツ・ジャパン, c1988 請求記号●VD442

1987 年 1 月, 東京ミュージック・ジョイ, 武満徹の映画音楽コンサートの実況録音

「風の谷のナウシカ」

プロデューサー: 高畑勲、原作・脚本・監督: 宮崎駿、音楽: 久石譲

[東京] : 発売元: 徳間書店, c1984 請求記号●VD1423

「伊福部昭の自画像」

監督: 実相寺昭雄、指揮協演: 原田甫、ほか (1991年録音)

収録: 1991年12月13日, 府中の森 芸術劇場どりーむホール 伊福部昭へのインタビューを含む

東京: 東芝EMI, 1992 請求記号●VD3059

「霧の旗」

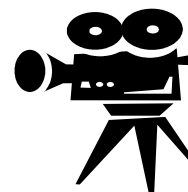
監督: 山田洋次、音楽: 林光 (1965年作品) 原作: 松本清張

東京: 発売・販売元: 松竹ビデオ事業室, [20--?] 請求記号●VX38

「日本映画 黄金時代 ; 名作サントラ音楽」

Tokyo: King, 1995 請求記号●XD40883

用心棒 ; 東宝映画「用心棒」より-- 山河あり ; 松竹映画「山河あり」より-- からみ合い ; にんじんくらぶ製作・松竹映画「からみ合い」より、他収録。ブルーリボン・オーケストラ (第3, 5曲)



●展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2012/10/2 編集●国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 撰正弘・田村和子